

ぽっぽちゃんからの

研究だより

まとめ号



令和5年（2023年）3月17日

札幌市立もいわ幼稚園

園長 瀬戸 富美子

札幌市南区の研究実践園として、もいわ幼稚園では今年度より下記の研究主題や研究副主題に向けて、実践的な研究に取り組んで参りました。今年度は「遊ぼう day」や「お家の人と遊ぼう週間」を通して、保護者の方に保育参加をして直接子どもに関わっていただく中で、幼児の遊びの楽しさや育ちについて保護者と共有しながら、多様なヒト・モノ・コトに出会う機会を保護者にも提供していただくことで刺激を受けたり、豊かな経験につながるきっかけを企画・実施してきました。今年度の取組について成果、課題をまとめましたのでお知らせいたします。

<研究主題> （札幌市研究実践園10園 共通）

「質の高い幼児教育の実現に向けて ～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育」

<研究副主題> （中央区と共通）

「園と家庭が一体となって子どもの育ちを支えるために」

<研究の重点>

「遊びの楽しさや面白さ、一人一人の育ちについて、保護者と共有していくために」

今年度のポイント

～「お家の人と遊ぼう週間」や「遊ぼう day」などの保護者との関わりを通して～

○研究の方法

(1) 「お家の人と遊ぼう週間」の企画と保護者の参加調整と打ち合わせ

(2) 事例を通して「遊ぼう day」当日の保護者と幼児の姿や遊びの変容などについての検証

年長 5月（Ⅱ期）『お化け屋敷ごっこ』

年中 10月（Ⅲ期）『ハロウィンごっこ』

年少 1月（Ⅳ期）『おもちつきごっこ』

(3) 保育研究を通して「遊ぼう day」「お家の人と遊ぼう週間」後の遊びの経過の記録や検証

(4) レポート「まほうのかいわ」や保護者との懇談などを活用しながら、保護者の考えに寄り添う

研究主題 質の高い幼児教育の実現に向けて～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育

副主題 「園と家庭とが一体となって子どもの育ちを支えるために」

<研究の重点>
～遊びの楽しさや面白さ、一人一人の育ちについて保護者と共有するために～

方法

<遊ぼう DAY>

全保護者が年に1回参加をする「遊ぼう day」の活動を通して、保護者が「幼児の視点から遊びの楽しさ」を体験し、遊びを作ったり進めたりする楽しさや面白さを共感し合う場となるように保育の企画と実施。

<遊ぼう週間 >

保育参加「お家の人と遊ぼう週間」を設定し、参加希望する保護者の得意なことを活かす環境や状況をつくり、幼児が多様なヒト・モノ・コトに出合う機会となるように保育の企画と実施。

計画・企画

計画・企画

保護者に対する遊びの楽しさや面白さを体験するための環境の構成・教師の援助のポイント

<事例などより、具体的な例を抜粋>

- お化け屋敷作りに参加した保護者が何をしたらいいかが分からなくなるための、丁寧な準備(お化け屋敷ごっこ)
 - ・幼児から「クモ巣という要求を受があればいい」との願い受け、教師は保護者に「どういうクモの巣ですか?」などイメージを聞き、保護者の意欲を引き出す言葉掛けやクモの巣を作るイメージに合った教材の提示
- 保護者がイメージしやすい遊びの計画や保護者の力を発揮できる役割(ハロウィンごっこ)
 - ・“ハロウィン”“おばけ”“公園”など幼児も保護者も分かりやすく、目的をもちやすい遊び作り
 - ・イメージを共有するためのアイテムの活用(絵本)
- 保護者が主体的に動けるように、保護者に任せる場面づくり(おもちゃつきごっこ)
 - ・“やってみせる”“大げさに共感する”ことで、何をしているかが分からなくても「やってみたい!」という意欲を引き出す保護者や教師の影響
 - ・保護者の参加人数やメンバー構成の調整
 - ・幼児も大人も一体となって遊べる適切な広さの場の選定
- 保護者に合わせた教師の関わり(遊ぼう週間)
 - ・幼児の成長を実感してもらえるように、見守ることを促す教師の言葉掛け
 - ・保護者が安心して参加できるための、事前の打ち合わせ

実施

実施

<保護者が遊びを通して気付いたことや感じたこと>

- ・自分のできることを「見せたい!」「教えたい!」という思いや、保護者のために「やってあげたい!」という幼児の思いの強さを実感
- ・家庭では見ることのできない友達との関りを通じた我が子の様子
- ・年齢に応じて扱える道具や、幼児でも扱える様々な素材があること
- ・幼児に誘われて一緒に動いているうちに、保護者も夢中になってなりきって遊ぶ楽しさ
- ・分からないけど、やってみると「楽しかった!!」という経験
- ・幼児・保護者・教師が同じイメージをもって遊ぶことの楽しさ
- ・「こんなことを考えるんだ!」と驚く、幼児の発想やアイデアの豊かさ
- ・幼児一人一人が「違いを楽しむ」「活かそうとする」などそれぞれの楽しみ方で遊んでいる姿の見取り
- ・幼児と動いているうちに、保護者も刺激を受けて楽しんでいるような夢中になれる体験

<保護者が参加することで、より面白く、楽しめた遊びや活動>

前期

- ・ダイナミックな砂場遊び(大きくて深い川・大きな山作りなど)
- ・虫取り、ピオトープに住む虫の観察(大きなカエルを発見)
- ・ヨガ、フラダンス
- ・園庭で絵の具遊び
- ・製作(ゲコゲコカエル、傘袋でロケット作り)
- ・大人と真剣勝負の鬼ごっこ
- ・サッカーのチーム戦
- ・幼稚園皆でシャボン玉 他

後期

- ・段ボールを利用してホールで車やバス作り
- ・編物(オブジェ作りを完成まで)
- ・お琴の演奏
- ・お父さんに体ごと挑む相撲大会
- ・段ボールの大型ソリ(家庭から持参)で雪山滑り
- ・キラキラの氷(家庭から実験を繰り返して持参)を作り、お菓子や宝石に見立てて遊ぶ
- ・大きな雪穴(お風呂)作り 他

<仮説>

幼児に多様なヒト・モノ・コトに出会える機会を設け、遊びの楽しさや面白さ、一人一人の育ちについて保護者と共有していくことで、幼児が遊びを通して豊かな経験を積み重ねながら主体性を育てていく姿に繋がっていくのではないかと。

<仮説に繋がる幼児の姿>

- ・鬼ごっこではお父さんが本気で追いかけてくるので、思いっきり走って逃げる楽しさを味わった。
- ・印象深かった遊びを家庭で話し、保護者と一緒に再現しようとする心を動かす経験となった。
- ・幼稚園ではやらない体の動きをしながらヨガやフラダンスを踊るなど、経験の幅が広がった。
- ・ヨガマット・スポイト・氷を作る型・段ボールの大型ソリ・シャボン玉がたくさん作れる道具など、家庭から持参していただいた“モノ”に関心を示し「やってみよう！」という意欲が引き出された。
- ・ダイナミックな絵の具遊び(汚れても気にならない)の経験があるため、その後の砂や泥遊びでも汚れを気にせず遊ぶ姿に繋がった。
- ・回数を重ねていくうちに、保護者がいると「楽しいことがありそう！」という期待感が増幅し、「遊ぼう週間」をとっても楽しみにするようになっていった。
- ・他児がやっているのを見ているだけではなく「やってみないと、楽しめないよ！」と自分から主体的に遊びに参加する積極性が出てきた。
- ・親しみの気持ちや安心感をもって、自分の親ではなくとも保護者の方に主体的に関わる姿が増えた。
- ・年長がお父さんと“おすもう”をしているのを見る、氷のカラフルな色で心が躍り、翌日には年少児が同じように遊びだした姿に繋がった。

<保護者が遊びに関わることの効果>

- ☆教師が一人一人の保護者へのアプローチ方法をしっかり考えて対応することができるようになり、教師と保護者の間に信頼関係、絆ができた実感する。
- ☆保護者は園で我が子や他の幼児と「どうやって遊んでいいのかが、分からないことが分かった。
- ☆保護者が園と一緒に遊ぶことで子どもたちの遊びの様子を想像することができるようになり、教師からの話がより伝わりやすくなった。
- ☆“遊び作り”では、遊びの内容・人数・教材などについて、準備の段階からかなり細部まで打ち合わせることで、だんだんと職員の思いが共通化されたり、多様な遊び方の発想などがでてきたりした。
- ☆今年度は「遊ぼう週間」は希望している保護者だったが、遊びを教師と保護者が一緒に考えたり保護者に任せたりすることで保護者自身も家庭で遊びを考えてくださるなど、主体性や存在感を発揮していただく機会となった。また、教師と同様に保護者の体験が遊びに生きる(子どもの頃に習っていたお琴など)ということが分かった。
 - ・当初、幼稚園側で捉えていた保護者のイメージとは異なる一面(得意なこと)を、発揮していただく機会となった。
 - ・親子で話し合っ「シャボン玉」の道具や、作って遊べる物の材料を家庭から積極的な持ち込みがいろいろあった。
- ☆(親力の)小さな変化、大きな変化はそれぞれだが、子ども同様に保護者が変化していく存在であることに気づき、保護者の成長を教師間で共有していくことが大切だと分かった。
 - ・保護者同士も一緒に遊びながら会話が弾み、いい関わりが見られる。
 - ・保護者が異年齢の幼児と触れ合うことで、年齢の発達の違いに気付くことができる機会となった(編物など)
- ☆保護者の頑張りを教師が盛り上げたり教師が保護者に歩み寄っていったりすることで、保護者が子育てに自信がもてるようになり、保護者が変われば子どもも安定して遊べるように変容していくことが分かった。
- ☆「まほうのかいわ」のレポートを介した取組を継続していくことで、保護者自身が我が子の成長を振り返ることができたり学年によって関わり方が変化したりしていくことが分かった。
 - ・親子でイチゴの生長を観察したり同じ遊びを楽しんだりすることで幼児を見る眼差しが温かくなり、幼児にかける言葉も肯定的になった。
 - ・絵本貸し出しのレポートでは「自分で読むことができたので、下の子に読んであげることができて嬉しそうでした」など、我が子の様子を見守りながら成長を感じている様子が伺えた。

<課題・次年度に向けて>

- ☆次年度は年長組と年中組の「いっしょ暮らし」が始まる。多様なヒトとの出会いのために「みんなで遊ぼう週間」に様々な人が参加する方法を工夫し、計画を立てていく。
- ☆一人一人の幼児の発達に必要な多様な豊かな経験を積み重ねていくために、今年度以上に日常的に“遊び作り”の企画・実施をしていく必要がある。その為に、「みんなで遊ぼう週間」のマンパワーを有効に保育に生かせるように、教育課程や行事などの年間計画に照らし合わせた長期・短期の見通しをもった計画をしていく。
- ☆来年度は「みんなで遊ぼう週間」で園からの一方的な情報発信ではなく、保護者が「やってみよう」という思いや、園での遊びや生活を通して幼児がどのような学びをしていくとよいかなどの願いをもつこと、そして、それらの思いを園が理解して受け止めたり一緒に考えたりできるように、今年度の取組を生かしながら継続していく。
- ☆教師が保護者を褒めることで保護者自身が自信をもてるようになることが分かったので、次年度は「見つけよう!子どものいいね!大人のいいね!」をキーワードに幼児・保護者・教師のそれぞれの肯定的な姿や関りなどのポイントを共有したいと考える。



保護者の方に年間を通して書いていただくレポート“まほうのかいわ”を通して、3歳ではお子さんに寄り添う関わり、4歳ではお子さんの意欲を高めるような関わり、5歳では一緒に考えたりお子さんに任せてみる関りなど、年齢に応じて保護者の方の関わり方が変化していくことが分りました。

1年間保護者の方に書いていただいた“まほうのかいわ”を以下のように集計・まとめましたのでお知らせいたします。

「まほうのかいわ」回答結果

「いちご栽培 成長・観察編」「いちご栽培 収穫編」「なつやすみのレポート」「ふゆやすみのレポート」

ま	・毎日の「遊び」で楽しかったことを振り返り共感しましょう。	71.1%
ほう	・方法に気付くように、一緒に考えましょう。	47.8%
の	・伸びを一緒に喜び、ほめましょう。	55.3%
かい	・改善する気持ち(意欲)をもてるように、生活を一緒に振り返りましょう。	36.8%
わ	・分かったこと、できたことを認め、もっと挑戦できるようにしましょう。	50.3%

レポート「まほうのかいわ」を通して、保護者の方の関り方についてのまとめ

回答結果より、一番多く使われていた【ま】では「～っておもしろいね」「その気持ち、わかるよ」「～のことが、心配なんだね」など、お子さんと一緒に遊びながら気持ちや思いを受け止める言葉を3学年ともに多くかけられていました。次に多かった【の】では、「～が楽しいんだね」「～が好きなんだね」「～ができるようになりたいんだね」など、お子さんの興味や関心に気付き、お子さんの良さを伝えたりほめたりする言葉をかけられていました。【ほう】【わ】では、「こうしたら、うまくいくんじゃないかな」「自分の方法で、やってごらん」「どうやったらできるか教えてくれる?」「失敗しても、やり直せばいいよ」など、お子さんの意欲を引き出す言葉をかけられていました。【かい】では「約束をする」など、生活の中で自分のことは自分でできるような言葉をかけられていました。



保護者のみなさんのお子さんの「まほうのかいわ」を紹介します!



ま

楽しかったことを振り返り共感しましょう



虫など本人の興味のあることを、一緒に観察したり調べたりした。

(ひよこ)

「またやろうね、楽しかったね!」とたくさん声を掛け、気持ちを共有した。(うさぎ)

一緒に遊んだり、時には見守ったりした。(ひよこ・きりん)

一緒に楽しんだり、喜んだり気持ちを共有しながら遊んだ(きりん)



遊びだせない時は、親が楽しんでいるところを見せて、やってみようという気持ちを引き出した。(ひよこ)



ほう

方法に気付くように一緒に考えましょう



遊びのヒントやひろがるような声掛けをした。(ひよこ・うさぎ)

雪だるまの目や手を探そうと声を掛けました。(ひよこ)

どのように言えば、子どもに伝わるのか、親が研究した。(うさぎ)

悩んでいるときは他のアイデアを伝えてみた(きりん)

レゴの説明書を読むとき、わからないところはわかりやすく伝えサポートした。(きりん)



お祭りでお小遣いで買いものを一度屋台をみせて、計画的に行動できるように手伝った。(きりん)



伸びと一緒に喜び、ほめましょう



自分でやりたいという気持ちを尊重し、見守った。(きりん)



少し手を貸し、子どものできることを増やしていった。(うさぎ)

たくさん褒めた。
(全学年)



改善する気持ち(意欲)をもてるように、生活を一緒に振り返りましょう



夏休み、楽しかったことを振り返って、思い出話をたくさんした。(うさぎ)



鬼になりたくないと言ったときには「鬼になるのはかっこ悪いことじゃないんだよ。」と声をかけた。(うさぎ)

スキーに行く前に、前回やったことを家で練習してから行きました。(うさぎ)



わかったこと、できたことを認め、もっと挑戦できるようにしましょう



始め、危なっかしい行動に何度も声をかけていたが、その後そっと見守った(ひよこ・きりん)



初めての経験(海やスキーなど)を怖がらないように工夫した。(うさぎ)

親元を離れて親戚などと遊ばせてみた(ひよこ)

本人のやってみたい気持ちを大切に、黒子のように補助した。(ひよこ)

その他

祖母の家に行く前に「祖母の手伝いをする事、祖母が作ってくれたご飯をちゃんと食べる事」など約束をした。(きりん)

意図的に子どもに「教えて」と頼ってみた。頼ること、頼られることの喜びを感じられるようにした。(きりん)

本人の「この食べ物は苦手だ」という気持ちを受け止めた。(うさぎ)



父親の関わりを増やしてもらった。(きりん)

行事(年越し)の話をし、経験させた。(きりん)

絵本をたくさん読んであげた。(うさぎ)

“まほうのかいわ”が目標としている、子どもに寄り添い、伸びを認め、意欲を高める共感的・肯定的なメッセージを、家庭や幼稚園で伝えることでお子さんの成長を促すことに繋がっていると実感しております。

